MAKE THE WORLD SEE

# **Milestone Systems**

XProtect<sup>®</sup> Incident Manager 2023 R3

ユーザーマニュアル



# 目次

著作権、商標、および免責条項	4
サポートされるVMS製品とバージョン	5
概要	6
新機能	6
XProtect Incident Manager 2023 R1の新機能	6
本書とeラーニングコース	6
XProtect Incident Manager	6
操作	8
XProtect Incident Managerによるインシデントの文書化と管理	8
インシデントプロジェクトとインシデントプロパティ	8
インシデントプロジェクトの作成	9
インシデントプロジェクトの作成	9
インシデントプロジェクトをリアルタイムに作成する	9
インシデント発生後にインシデントプロジェクトを作成する1	0
新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを追加する1	1
新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを1つ追加する1	2
ビデオなしのインシデントプロジェクトを作成する1	3
インシデントプロジェクトの編集1	4
インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加する1	4
シーケンスを1つ追加する1	4
複数のシーケンスを追加する1	5
ステータス、コメント、その他プロパティを変更する1	5
インシデントプロジェクトからシーケンスを削除する1	6
インシデントプロジェクトをフィルター検索する1	7
インシデントプロジェクトでビデオを表示する1	7
インシデントプロジェクトのユーザーアクティビティログを表示する1	7
インシデントプロジェクト情報からなるレポートを作成する1	8
インシデントプロジェクトをエクスポートする1	8

インシデントプロジェクトを削除する	
トラブルシューティング	
XProtect Incident Managerトラブルシューティング	20
XProtect Smart Clientのメッセージ	20
用語集	22

# 著作権、商標、および免責条項

Copyright © 2023 Milestone Systems A/S

### 商標

XProtectはMilestone Systems A/Sの登録商標です。

MicrosoftおよびWindowsは、Microsoft Corporationの登録商標です。App StoreはApple Inc.のサービスマークで す。AndroidはGoogle Inc.の商標です。

本文書に記載されているその他の商標はすべて、該当する各所有者の商標です。

### 免責条項

本マニュアルは一般的な情報を提供するためのものであり、その作成には細心の注意が払われています。

この情報を使用することにより発生するリスクはすべて、使用者が負うものとします。また、ここに記載されている 内容はいずれも、いかなる事柄も保証するものではありません。

Milestone Systems A/Sは、事前の通知なしに変更を加える権利を有するものとします。

本書の例で使用されている人物および組織の名前はすべて架空のものです。実在する組織や人物に対する類似性は、 それが現存しているかどうかにかかわらず、まったく偶然であり、意図的なものではありません。

この製品では、特定の規約が適用される可能性があるサードパーティー製ソフトウェアを使用することがあります。 その場合、詳細はMilestoneシステムインストールフォルダーにあるファイル3rd\_party\_software\_terms\_and\_ conditions.txtを参照してください。

# サポートされるVMS製品とバージョン

このマニュアルでは、次のXProtectVMS製品によりサポートされる機能を説明します。

- XProtect Corporate
- XProtect Expert
- XProtect Professional+
- XProtect Express+

Milestoneは、XProtectVMS製品の現行のバージョンと以前の2つのバージョンを使用して、本書に記載されている 機能をテストします。

新しい機能が現在のリリースバージョンでのみサポートされており、以前のリリースバージョンではサポートされて いない場合は、機能の説明にこれに関する情報が記載されています。



## 新機能

### XProtect Incident Manager 2023 R1の新機能

• GDPRまたは個人データに関するその他の適用法を遵守するために、XProtect Management Clientのシステム管理者はインシデントプロジェクトの保存期間を定義できます。

### XProtect Incident Manager 2022 R3の新機能

- 現在、XProtect Incident Manager拡張機能は、XProtect Expert、XProtect Professional+、および XProtect Express+のバージョン2022 R3以降とも互換性があります。
- XProtect Incident Managerは10,000件以上のインシデントプロジェクトを表示できるようになりました。

### XProtect Incident Manager 2022 R2の新機能

- この拡張機能の最初のリリース
- XProtect Incident Manager拡張機能は、XProtect Corporateのバージョン2022 R2以降、およびXProtect Smart Clientのバージョン2022 R2以降と互換性があります。

# 本書とeラーニングコース

本書は、XProtect Incident Managerの機能を使って強力なエビデンスを収集する方法を説明します。

MilestoneはすべてのXProtect製品にeラーニングコースを提供しています。Milestone Learning Portalの https://learn.milestonesys.com/index.htmをご覧ください。

XProtect Incident Managerのコースを探すには、incident managerを検索してください。Using XProtect Incident ManagerコースはXProtect Smart Clientのオペレータ用で、Configuring XProtect Incident Managerコースは XProtect Management Clientのシステム管理者用です。

## **XProtect Incident Manager**

Milestoneはさまざまな拡張機能を開発してきました。拡張機能とは、XProtectVMS製品の機能を拡張し、さらに特殊な機能を追加した製品のことです。XProtectのライセンスファイルは、拡張機能へのアクセスをコントロールします。



使用可能な機能は、使用しているシステムによって異なります。すべての機能に関するリストをご確認ください。リストは、Milestoneウェブサイト (https://www.milestonesys.com/products/software/product-index/)の製品概要ページにあります。 XProtect Incident Managerは、組織がインシデントを文書化したり、XProtectVMSからのシーケンスエビデンス (ビデオ、音声でも可)と組み合わたりすることを可能にする拡張機能です。



XProtect Incident Managerのユーザーはインシデントプロジェクトのすべてのインシデント情報を保存することが 可能です。インシデントプロジェクトから、各インシデントのステータスとアクティビティを追跡することができま す。このようにして、ユーザーはインシデントを効果的に管理し、内部的には同僚と、外部的には当局と強力なイン シデントのエビデンスを簡単に共有できます。

XProtect Incident Manager は、調査対象の場所で起きているインシデントを概観および理解するのに役立ちます。 この知識により、組織は同様のインシデントが今後発生する可能性を最小限に抑えるための手順を実装できます。

XProtect Management Clientでは、組織のXProtect VMSのシステム管理者は、XProtect Incident Managerにおい て使用可能なインシデントプロパティを組織のニーズに合わせて定義することができます。XProtect Smart Client のオペレータはインシデントプロジェクトを開始、保存、管理し、インシデントプロジェクトにさまざまな情報を追 加することができます。これには、フリーテキスト、システム管理者が定義したインシデントプロパティ、および XProtectVMSからのシーケンスが含まれます。完全なトレーサビリティを実現するために、XProtectVMSは、シス テム管理者がインシデントプロパティを定義および編集するとき、およびオペレータがインシデントプロジェクトを 作成および更新するときにログを記録します。

# 操作

## XProtect Incident Managerによるインシデントの文書化と管理

XProtect Incident Manager拡張機能がインストールおよび設定され、VMSのシステム管理者によってユーザーに必要な権限が付与されると、そのユーザーはXProtect Smart Clientでインシデントを文書化および管理し、インシデントプロジェクトにすべての情報を保存できます。

**インシデント**タブでは、インシデントプロジェクトを表示・更新したり、インシデントを管理したりできます。通 常、ユーザーは、インシデントプロジェクトにシーケンスおよびさまざまなテキスト情報を追加することで、インシ デントの発生日時に起きたこと資料化して証明します。

インシデント管理では、以下を行うことができます。

- インシデントプロジェクトのリストをフィルタリングして、関連するインシデントプロジェクトを素早く検索する
- さまざまなインシデントプロジェクトのステータスとタイプ、開始および終了時刻、説明を表示する
- インシデント管理の最新のアクションおよびその他の展開でインシデントプロジェクトを更新する
- レポートを作成およびインシデントプロジェクトのシーケンスをエクスポートすることで社内または社外と エビデンスを共有する

# インシデントプロジェクトとインシデントプロパティ

XProtect VMSのシステム管理者によってXProtect Incident Managerが設定され、必要な権限が付与されると、イン シデントプロジェクトにインシデントに関するすべての情報を保存することができます。

保存されたすべてのインシデントプロジェクトは、**インシデント**タブで確認できます。インシデントプロジェクトは 何件でも保存可能です。リストには1ページあたり100件のインシデントプロジェクトが表示され、最も最近作成さ れたものが一番上に表示されます。**インシデント**タブから、インシデントプロジェクトを管理・更新したり、レポー トおよびエクスポートを使用して他の人とインシデントプロジェクトを共有したりできます。

インシデントプロジェクトに追加できる情報と、定義できるプロパティは以下の通りです。

- XProtectVMSからのビデオおよび場合によっては音声入りのシーケンス
- インシデントプロパティ(タイプ、ステータス、カテゴリー、データ要素など)
- コメント、説明などの情報、電話に関する情報。

XProtect VMS管理者は、インシデントプロジェクトに割り当てられるインシデントプロパティを定義します。イン シデントプロジェクトには、いつでも自由形式のテキスト情報およびXProtect VMSからのシーケンスを追加するこ とができます。

新しいインシデントプロジェクトを作成すると、インシデントタイプを指定して、説明を付けることができます。イ ンシデントプロジェクトを作成した後で、追加の情報を後で追加するのはよくあることです。そのためには、**インシ**  **デント**タブからインシデントプロジェクトをダブルクリックして開きます。そして、各種タブに用意されている各種 情報およびプロパティを追加・編集します。必要に応じてレポートおよびエクスポートを使用してインシデントプロ ジェクトの情報を他の人と共有することもできます。

# インシデントプロジェクトの作成

### インシデントプロジェクトの作成

インシデントプロジェクトを作成する方法はいくつかあります。どの方法は最適かは、以下の条件によって異なりま す。

- インシデントを発見した場合。
- 状況が継続していて、その場で解決する必要があるため、インシデントプロジェクトを作成する時間がほとんどまたはまったくない場合。
- インシデントプロジェクトに追加するシーケンスがない場合。
- 個人的な判断による場合。

シーケンスとインシデントプロジェクトにシステム管理者が定義した保存期間より長期間の 間、インシデントプロジェクトにシーケンスと情報が必要な場合は、インシデントプロジェ クトをエクスポートしてレポートを生成します。「18ページのインシデントプロジェクトを エクスポートする」と「18ページのインシデントプロジェクト情報からなるレポートを作成 する」を参照してください。

### インシデントプロジェクトをリアルタイムに作成する

継続中にインシデントがあることに気付いたが、個人的にサイトの状況を解決する必要がない場合は、以下の方法に 従ってシーケンスを追加し、インシデントを文書化します。

1. ライブモードで、**表示ペイン**を選択します。



- 2. **MIPプラグイン**区画と**インシデント**から、**インシデントプロジェクトを開始**を選択します。XProtect Incident Managerによって現在のビューでシーケンスの収集が開始されます。
  - オプション。ビューを切り替えて、インシデントに関連する人物およびオブジェクトを追います。
  - オプション。支援を求めて現場で状況を解決します。

- 3. インシデントが停止し、それ以上のエビデンスが必要なくなったら、[**インシデントプロジェクトを保存**]を 選択します。
- 4. インシデントのタイプを選択し、インシデントプロジェクトの説明を入力します。[Save (保存)]を選択し ます。

新しいインシデントプロジェクトに情報を追加するには、以下の手順に従います。

1. インシデントタブを選択し、作成したインシデントプロジェクトをダブルクリックして開きます。

Views	Exports	Search	Alarm Manager	Incidents	System Monitor
					,

2. インシデントに関する以下の必要なデータを記入してください。

- 主な情報タブで、インシデントの管理ステータスを選択します。
- カテゴリータブで、組織に合わせてVMSシステム管理者が定義した各種プロパティを選択または入力 します。
- コメントタブでインシデントに関する自由形式のテキスト 情報を入力します。

可能な場合は、コメントを記述し、インシデントプロジェクトがVMSからのシーケンスがなくても完 了するようにします。

- シーケンスリストタブで、インシデントプロジェクトに追加したすべてのシーケンスを確認できま す。すべてのシーケンスに関連性があることを確認し、関連性がないシーケンスは削除します。
- **電話**タブで、インシデントに関連して自分でかけた電話または受けた電話に関する情報を追加しま す。
- 3. 保存を選択します。

インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加したい場合は、14ページのインシデントプロジェクト に追加のシーケンスを追加するを参照してください。

シーケンスとインシデントプロジェクトにシステム管理者が定義した保存期間より長期間の 間、インシデントプロジェクトにシーケンスと情報が必要な場合は、インシデントプロジェ クトをエクスポートしてレポートを生成します。「18ページのインシデントプロジェクトを エクスポートする」と「18ページのインシデントプロジェクト情報からなるレポートを作成 する」を参照してください。

個人的な判断に従って、インシデントプロジェクトを作成するその他の方法を利用することもできます。10ページ のインシデント発生後にインシデントプロジェクトを作成するまたは13ページのビデオなしのインシデントプロ ジェクトを作成するを参照してください。

## インシデント発生後にインシデントプロジェクトを作成する

インシデント発生後にインシデントプロジェクトを作成する方法を2つあります。

- シーケンスを1つずつ追加し、ドラフトシーケンスリストから新しいインシデントプロジェクトにまとめて保存します。11ページの新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを追加するを参照してください。
- シーケンスを1つだけ追加して、新しいインシデントプロジェクトに直接保存します。12ページの新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを1つ追加するを参照してください。

### 新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを追加する

1. ライブまたは再生モードで、追加したいシーケンスのビューアイテム右下隅にある**インシデントプロジェク** トに追加するアイコンを選択します。



- 2. ドラフトシーケンスリストに追加を選択します。
- 3. [開始時刻を選択]を選択し、インシデントの発生開始位置までタイムライン追跡をドラッグします。
- 4. インシデントプロジェクトに追加を再び選択し、終了時刻の選択を続けます。
- 5. [終了時刻を選択]を選択し、インシデントの終了位置までタイムライン追跡をドラッグします。
- 6. 再びインシデントプロジェクトに追加を選択し、OKを選択します。

前の手順を必要な回数だけ繰り返して、インシデントプロジェクトの関連シーケンスをすべて取得します。

- 7. インシデントプロジェクトに追加アイコンを選択し、ドラフトシーケンスリストを表示を選択します。
- 8. 新規インシデントプロジェクトにすべて追加を選択します。
- 9. インシデントのタイプを選択し、インシデントプロジェクトの説明を入力します。[**Save(保存)**]を選択し ます。

新しいインシデントプロジェクトに情報を追加するには、以下の手順に従います。

1. インシデントタブを選択し、作成したインシデントプロジェクトをダブルクリックして開きます。



- 2. インシデントに関する以下の必要なデータを記入してください。
  - 主な情報タブで、インシデントの管理ステータスを選択します。
  - カテゴリータブで、組織に合わせてVMSシステム管理者が定義した各種プロパティを選択または入力 します。
  - **コメント**タブでインシデントに関する自由形式のテキスト 情報を入力します。

可能な場合は、コメントを記述し、インシデントプロジェクトがVMSからのシーケンスがなくても完 了するようにします。

- シーケンスリストタブで、インシデントプロジェクトに追加したすべてのシーケンスを確認できま す。すべてのシーケンスに関連性があることを確認し、関連性がないシーケンスは削除します。
- 電話タブで、インシデントに関連して自分でかけた電話または受けた電話に関する情報を追加しま す。
- 3. 保存を選択します。

インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加したい場合は、14ページのインシデントプロジェクト に追加のシーケンスを追加するを参照してください。

#### 新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを1つ追加する

1. ライブまたは再生モードで、追加したいシーケンスのビューアイテム右下隅にある**インシデントプロジェク** トに追加するアイコンを選択します。



- 2. 新規インシデントプロジェクトに追加を選択します。
- 3. [開始時刻を選択]を選択し、インシデントの発生開始位置までタイムライン追跡をドラッグします。
- 4. インシデントプロジェクトに追加を再び選択し、終了時刻の選択を続けます。
- 5. [終了時刻を選択]を選択し、インシデントの終了位置までタイムライン追跡をドラッグします。
- 6. 再びインシデントプロジェクトに追加を選択し、OKを選択します。
- 7. インシデントのタイプを選択し、インシデントプロジェクトの説明を入力します。[Save (保存)]を選択し ます。

新しいインシデントプロジェクトに情報を追加するには、以下の手順に従います。

1. インシデントタブを選択し、作成したインシデントプロジェクトをダブルクリックして開きます。

Views	Exports	Search	Alarm Manager	Incidents 📐	System Monitor

- 2. インシデントに関する以下の必要なデータを記入してください。
  - 主な情報タブで、インシデントの管理ステータスを選択します。
  - カテゴリータブで、組織に合わせてVMSシステム管理者が定義した各種プロパティを選択または入力 します。
  - コメントタブでインシデントに関する自由形式のテキスト 情報を入力します。

可能な場合は、コメントを記述し、インシデントプロジェクトがVMSからのシーケンスがなくても完 了するようにします。

- シーケンスリストタブで、インシデントプロジェクトに追加したすべてのシーケンスを確認できま す。すべてのシーケンスに関連性があることを確認し、関連性がないシーケンスは削除します。
- 電話タブで、インシデントに関連して自分でかけた電話または受けた電話に関する情報を追加しま す。
- 3. **保存**を選択します。

インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加したい場合は、14ページのインシデントプロジェクト に追加のシーケンスを追加するを参照してください。

 シーケンスとインシデントプロジェクトにシステム管理者が定義した保存期間より長期間の 間、インシデントプロジェクトにシーケンスと情報が必要な場合は、インシデントプロジェ クトをエクスポートしてレポートを生成します。「18ページのインシデントプロジェクトを エクスポートする」と「18ページのインシデントプロジェクト情報からなるレポートを作成 する」を参照してください。

## ビデオなしのインシデントプロジェクトを作成する

VMSからのシーケンスなしでインシデントプロジェクトを開始する場合は、以下の方法を使用します。この方法は、 すぐにシーケンスを追加する時間がない、またはVMSから追加するシーケンスがないが、XProtect Smart Clientで 他のインシデントプロジェクトと一緒にシーケンス無しのインシデントを文書化し、管理する場合に利用できます。 シーケンスがある場合は、後でいつでも追加できます。

1. ライブモードで、**表示ペイン**を選択します。



- 2. MIP プラグイン区画とインシデントから、空のインシデントプロジェクトの作成を選択します。
- 3. インシデントタブを選択し、作成したインシデントプロジェクトをダブルクリックして開きます。

Views	Exports	Search	Alarm Manager	Incidents 🕨	System Monitor
			ge	The second secon	- Jone

- 4. インシデントに関する以下の必要なデータを記入してください。
  - 主な情報タブで、インシデントの管理ステータスを選択します。
  - カテゴリータブで、組織に合わせてVMSシステム管理者が定義した各種プロパティを選択または入力 します。
  - **コメント**タブでインシデントに関する自由形式のテキスト 情報を入力します。

可能な場合は、コメントを記述し、インシデントプロジェクトがVMSからのシーケンスがなくても完 了するようにします。

- シーケンスリストタブで、インシデントプロジェクトに追加したすべてのシーケンスを確認できま す。すべてのシーケンスに関連性があることを確認し、関連性がないシーケンスは削除します。
- **電話**タブで、インシデントに関連して自分でかけた電話または受けた電話に関する情報を追加しま す。
- 5. 保存を選択します。

インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加したい場合は、14ページのインシデントプロジェクト に追加のシーケンスを追加するを参照してください。

シーケンスとインシデントプロジェクトにシステム管理者が定義した保存期間より長 期間の間、インシデントプロジェクトにシーケンスと情報が必要な場合は、インシデ ントプロジェクトをエクスポートしてレポートを生成します。「18ページのインシ デントプロジェクトをエクスポートする」と「18ページのインシデントプロジェクト 情報からなるレポートを作成する」を参照してください。

## インシデントプロジェクトの編集

### インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加する

インシデントプロジェクトをリアルタイムに作成すると、そのインシデントが始まる前に起きていたことを示すシー ケンスを追加したくなることがあります。

### シーケンスを1つ追加する

1. ライブまたは再生モードで、追加したいシーケンスのビューアイテム右下隅にある**インシデントプロジェク** トに追加するアイコンを選択します。



- 2. 既存のインシデントプロジェクトに追加を選択します。
- 3. [開始時刻を選択]を選択し、インシデントの発生開始位置までタイムライン追跡をドラッグします。
- 4. インシデントプロジェクトに追加を再び選択し、終了時刻の選択を続けます。
- 5. [終了時刻を選択]を選択し、インシデントの終了位置までタイムライン追跡をドラッグします。
- 6. 再びインシデントプロジェクトに追加を選択し、OKを選択します。
- 7. そのシーケンスの追加先のインシデントプロジェクトを選択します。



特定のインシデントプロジェクトを検索できない場合は、フィルターオプションを使 用できます。17ページのインシデントプロジェクトをフィルター検索するを参照して ください。

### 複数のシーケンスを追加する

1. ライブまたは再生モードで、追加したいシーケンスのビューアイテム右下隅にある**インシデントプロジェク** トに追加するアイコンを選択します。



- 2. ドラフトシーケンスリストに追加を選択します。
- 3. [開始時刻を選択]を選択し、インシデントの発生開始位置までタイムライン追跡をドラッグします。
- 4. インシデントプロジェクトに追加を再び選択し、終了時刻の選択を続けます。
- 5. [終了時刻を選択]を選択し、インシデントの終了位置までタイムライン追跡をドラッグします。
- 6. 再びインシデントプロジェクトに追加を選択し、OKを選択します。
- 7. 前の手順を必要な回数だけ繰り返して、インシデントプロジェクトの関連シーケンスをすべて取得します。
- 8. インシデントプロジェクトに追加アイコンを選択し、ドラフトシーケンスリストを表示を選択します。
- 9. 既存のインシデントプロジェクトに追加するドラフトシーケンスリストでシーケンスを選択し、**既存のイン シデントプロジェクトにすべて追加**を選択します。
- 10. そのシーケンスの追加先のインシデントプロジェクトを選択します。

特定のインシデントプロジェクトを検索できない場合は、フィルターオプションを使 用できます。17ページのインシデントプロジェクトをフィルター検索するを参照して ください。

### ステータス、コメント、その他プロパティを変更する

ー般に、既存のインシデントプロジェクトを更新することで、インシデント管理を最適化し、インシデントに関係す る最新の動向および情報を文書化することができます。

インシデントプロジェクトの更新が必要となるケースの例

- インシデント管理ステージのステータスが変わったため、インシデントプロジェクトのステータスも更新する必要がある。
- インシデントに関連して後で自分で電話をかけたか、電話を受けたため、インシデントプロジェクトにその

通話情報を追加する必要がある。

インシデントプロジェクトをエクスポートしたため、組織のネットワークにそのエクスポートを保存した場所に関するコメントを追加する必要がある。

インシデントプロジェクトを更新するには、以下を実行します。

1. インシデントタブを選択し、更新したいインシデントプロジェクトをダブルクリックします。

特定のインシデントプロジェクトを検索できない場合は、フィルターオプションを使 用できます。17ページのインシデントプロジェクトをフィルター検索するを参照して ください。

2. インシデント管理のステータスは、**主な情報**タブで更新できます。インシデントのタイプも変更できます が、通常、このプロパティは経時変化しません。

ID、作成者または開始および終了時間プロパティは変更できません。

- 3. カテゴリタブで、関連するカテゴリを選択して更新します。
- 4. コメントタブで、インシデントに関するフリーテキスト形式の情報を追加で入力します。
- 5. **電話**タブで、インシデントに関連して後で自分でかけた電話または自分で受けた電話に関する情報を追加し ます。

### インシデントプロジェクトからシーケンスを削除する

インシデントに関係のないシーケンスをインシデントプロジェクトに追加していた場合は、削除することができま す。

1. インシデントタブを選択し、更新したいインシデントプロジェクトをダブルクリックします。



特定のインシデントプロジェクトを検索できない場合は、フィルターオプションを使 用できます。17ページのインシデントプロジェクトをフィルター検索するを参照して ください。

2. Sequence list (シーケンスリスト) タブで削除したいシーケンスを選択します。



選択したシーケンスに間違いないか不確かな場合は、**View video(ビデオを表示)** を選択して確認します。17ページのインシデントプロジェクトでビデオを表示するを 参照してください。

3. Remove (削除) を選択し、確定します。

# インシデントプロジェクトをフィルター検索する

インシデントプロジェクトを簡単に検索するために、さまざまな情報に基づきすべてのインシデントプロジェクトを フィルタリングできます。

- 1. インシデントタブを選択します。
- 2. 1つ以上のフィルターを使用して、特定のインシデントプロジェクトを検索します。
  - インシデントプロジェクト内の、指定した日時の前または後に開始されたシーケンス
  - インシデントプロジェクト内のシーケンスの時間範囲
  - インシデントプロジェクトのID
  - インシデントプロジェクトの説明のテキスト
- 3. インシデントプロジェクトを選択します。

# インシデントプロジェクトでビデオを表示する

オペレータおよび同僚は、インシデントプロジェクトに追加されたビデオを表示することができます。例えば、イン シデントを振り返ったり、初めて確認したり、以前のインシデントプロジェクトのエビデンスを、おそらく関連する であろう新しいインシデントプロジェクトのエビデンスと比較したりする場合が想定できます。

- 1. インシデントタブを選択し、表示したいビデオを含むインシデントプロジェクトをダブルクリックします。
- 2. Sequence list (シーケンスリスト) タブを選択します。
- 3. View video (ビデオを表示) ボタンを選択します。
- 4. ウィンドウの右下角にあるシーケンスのリストから、表示するシーケンスを選択します。
- 5. ▶を選択してビデオを前方へ再生します。

# インシデントプロジェクトのユーザーアクティビティログを表示する

インシデントプロジェクトに変更が加えられると、VMSによってそのインシデントプロジェクトに関するログが記録 されます。このログには、変更点、変更者、変更の保存日時が記録されます。

1. インシデントタブを選択し、開きたいインシデントプロジェクトをダブルクリックします。



特定のインシデントプロジェクトを検索できない場合は、フィルターオプションを使 用できます。17ページのインシデントプロジェクトをフィルター検索するを参照して ください。

2. Activity logs (アクティビティログ) タブを選択します。

アクティビティログエントリには、ユーザーが以下である場合の情報が表示されます。

- インシデントプロジェクトの作成、編集、開示/読み込み。
- タイプ、ステータス、およびカテゴリーの値の適用、変更。
- コメントまたは電話に関する情報の追加、編集、削除。
- エクスポート対象のインシデントプロジェクトの送信。
- インシデントプロジェクトレポートの生成、印刷。
- ・ シーケンスの追加、削除。
- 3. アクティビティログの内容を確認します。

## インシデントプロジェクト情報からなるレポートを作成する

ユーザーは、インシデントプロジェクトに追加したすべてのテキスト情報を含むレポートを作成することができま す。

インシデントプロジェクトは、その保存期間に達すると自動的に削除されます。したがって、インシデントプロジェ クトにテキスト情報をエビデンスとして長期間保存する必要がある場合は、保存期間が切れる前にレポートを生成し なければなりません。

レポートを作成すると、印刷したり保存したりできます。同僚や警察、その他の人に、インシデントプロジェクトの エクスポート物と共にレポートを送信することができます。エクスポートには、インシデントプロジェクトに追加さ れているシーケンスが含まれます。18ページのインシデントプロジェクトをエクスポートするを参照してくださ い。

- 1. **インシデント**タブを選択します。
- 2. レポートを作成するインシデントプロジェクトを選択します。
- 3. [**レポートの作成**]を選択します。
- 4. デフォルトで、すべてのユーザー名はレポートで非表示です。[**ユーザー名を表示**]を選択して、名前を表示し ます。
- 5. レポートを印刷または保存するには、[印刷]を選択します。

印刷または保存レポートでユーザー名を非表示になるかどうかは、[ユーザー名を表示]の設定で決まります。

## インシデントプロジェクトをエクスポートする

インシデントプロジェクトとシーケンスは、その保存期間に達すると自動的に削除されます。したがって、長期間エ ビデンスビデオが必要な場合は、保存期間が切れる前にプロジェクトをエクスポートしてください。

エクスポート対象としてインシデントプロジェクトを送信すると、そのインシデントプロジェクトのすべてのシーケ ンスが、**エクスポート**タブの**エクスポートリスト**に挿入されます。インシデントプロジェクトのシーケンスのエクス ポートでは、**エクスポート**タブにあるすべての設定を利用できます。

インシデントプロジェクトに追加されているシーケンスをエクスポートする

- 1. インシデントタブを選択します。
- 2. エクスポートしたいインシデントプロジェクトを選択します。
- 3. エクスポートのために送信を選択します。

**エクスポート**タブが表示され、選択したインシデントプロジェクトのすべてのシーケンスが**エクスポートリ スト**に追加されます。

4. エクスポートでご希望の形式とその他の設定を選択します。

一般に、エクスポートの保存または共有では、同じインシデントプロジェクトに追加されたすべてのテキスト情報を 含むレポートを保存または共有することもできます。18ページのインシデントプロジェクト情報からなるレポート を作成するを参照してください。

# インシデントプロジェクトを削除する

インシデントプロジェクトが不要になった場合は、削除することができます。削除は元に戻せません。

- 1. **インシデント**タブを選択します。
- 2. 削除したいインシデントプロジェクトを選択します。
- 3. Delete (削除) を選択し、確定します。

インシデントプロジェクトの削除について疑問点や不明な点がある場合は、プロジェクトを 開いて情報を確認してから削除できます。またビデオシーケンスを表示して、削除対象とし て間違ったインシデントプロジェクトを選択していないか確認してください。

# トラブルシューティング

## XProtect Incident Managerトラブルシューティング

#### XProtect Smart Clientのメッセージ

シーケンスを追加できません。後でもう一度お試しください。

VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者:ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼動しているかどうか確認してください。

インシデントプロジェクトを作成できません。後でもう一度お試しください。

VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者:ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼動しているかどうか確認してください。

### レポートを生成できません。後でもう一度お試しください。

このメッセージでは2つの原因が考えられます。

- a. VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。 システム管理者:ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼動しているかどうか確認してく ださい。
- b. インシデントプロジェクトリストとシーケンスリストがリアルタイムに更新されていない。このため、 XProtect Smart Clientのオペレータがこれらのリストのいずれかを開いていたときに、別のオペレータに よってそのリストから項目が削除された場合、その削除されたリスト項目、またはそのリスト項目に含まれ る要素を編集しようとすると、このメッセージが表示されます。
  例えばオペレータがインシデントプロジェクトノリスとを開いているときに、別のオペレータがインシデン トプロジェクトを削除したと仮定します。その場合、コンピュータ上のリストには削除されたインシデント プロジェクトが表示されますが、レポートを生成しようとするとこのエラーメッセージが返されます。

### このアクションは実行できません。リストを更新してください。

インシデントプロジェクトリストとシーケンスリストがリアルタイムに更新されていない。このため、XProtect SmartClientのオペレータがこれらのリストのいずれかを開いていたときに、別のオペレータによってそのリストか ら項目が削除された場合、その削除されたリスト項目を編集または保存しようとすると、このメッセージが表示され ます。

#### このアクションは実行できません。後でもう一度お試しください。

VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者:ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼動しているかどうか確認してください。

#### すべてのシーケンスを削除することはできません。後でもう一度お試しください。

VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者:ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼動しているかどうか確認してください。

20 | トラブルシューティング

### [x]を保存できません。後でもう一度お試しください。

このメッセージはコメント、電話に関する情報、または別の設定の保存を試みたときに表示されます。このメッセージでは2つの原因が考えられます。

a. VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者:ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼動しているかどうか確認してく ださい。

 カンシデントプロジェクトリストとシーケンスリストがリアルタイムに更新されていない。このため、 XProtect Smart Clientのオペレータがこれらのリストのいずれかを開いていたときに、別のオペレータに よってそのリストから項目が削除された場合、その削除されたリスト項目、またはそのリスト項目に含まれ る要素を編集しようとすると、このメッセージが表示されます。
例えばオペレータがインシデントプロジェクトノリスとを開いているときに、別のオペレータがインシデン トプロジェクトを削除したと仮定します。この後、削除されたインシデントプロジェクトをコンピュータか
ら開くことはできますが、コメントや電話に関する情報の編集、インシデントステータスの変更、またはその他の操作を試みると、このエラーメッセージが返されます。

### 権限が拒否されました。

システム管理者が機能を使用する権限を付与していない。この機能なしでタスクを完了できない場合は、システム管 理者に連絡してください。

### レポートが生成されましたが、含まれていない情報があります。

レポートの生成中にVMSサーバーまたはサービスとの接続が失われました。レポートにインシデントプロジェクトらの一部情報が含まれていません。レポートを生成し直してみてください。

#### この情報は利用できません。

システム管理者が機能を使用する権限を付与していない。この機能なしでタスクを完了できない場合は、システム管 理者に連絡してください。

# 用語集

### Х

### **XProtect Incident Manager**

XProtect監視システムのアドオンとして使用できる製品。XProtect Incident Managerなら、XProtect Smart Client以内にインシデントを文書化して管理できます。

### あ

### アクティビティログ

VMSで追加された、VMSでのユーザーのアクティビティを説明するログエントリ。

### い

### インシデント

組織のスタッフ、資産、運用、サービス、または機能の損傷、損失、混乱につながる可能性のある否定的または危険 な行為または状況。

### インシデントカテゴリー

インシデントに関するオプションの詳細。カテゴリーでインシデントに関するより詳細な情報を追加できます。イン シデントカテゴリーには、インシデントのロケーション、共犯者の数、および当局の関与有無などが挙げられます。

### インシデントタイプ

インシデントに関する詳細情報。タイプでそれがどのようなインシデントであるかを分類します。インシデントタイ プの例を以下に挙げています。盗難、自動車事故、不法侵入。

### インシデントのステータス

インシデントに関する詳細情報。インシデントステータスでインシデント調査の進捗を追跡できます。以下はインシ デントステータスの例です。新規、処理中、保留中、処理済

### インシデントのプロパティ

インシデントプロジェクトに対してカテゴリ、ステータス、タイプなど幅広いデータが定義できます

### インシデントプロジェクト

インシデントに関するデータが保存されているプロジェクト。データには、ビデオ、音声、コメント、インシデント カテゴリー、およびその他のデータが含まれます。 オペレータは、コメントを追加し、XProtect Smart Clientのイ ンシデントプロジェクトに関連するインシデント特性を選択します。Management Clientでは、システム管理者 は、インシデントプロジェクトを作成するときに、オペレータが使用できるインシデント特性を定義します。

### インシデント管理

ネガティブな影響を伴う状況を迅速に修正して今後の再発を防ぐために、インシデントを識別、文書化、処理、およ び分析する組織のアクティビティ。インシデントも参照してください。

## L

### シーケンスリスト

XProtectVMSから発信されたビデオおよび場合によっては音声を使用した継続した録音/録画期間のリスト。

### ک

### ドラフトシーケンスリスト

ビデオおよび場合によっては音声を使用した、継続した録音/録画期間の一時的なリスト。ユーザーは、1)新しいインシデントプロジェクトを作成し、新しいプロジェクトにシーケンスを追加するか、2)既存のインシデントプロジェクトにシーケンスを追加する最初のステップとして、ドラフトシーケンスリストにさまざまなシーケンスを追加できます。



## helpfeedback@milestone.dk

Milestoneについて

Milestone Systemsはオープンプラットフォームのビデオ管理ソフトウェア(VMS)の世界有数のプロバイダー です。お客様の安全の確保、資産の保護を通してビジネス効率の向上に役立つテクノロジーを提供しています。 Milestone Systemsは、世界の15万以上のサイトで実証された高い信頼性と拡張性を持つソリューションによ り、ネットワークビデオ技術の開発と利用におけるコラボレーションとイノベーションを促進するオープンプ ラットフォームコミュニティを形成しています。Milestone Systemsは、1998年創業、Canon Group傘下の独立 企業です。詳しくは、https://www.milestonesys.com/をご覧ください。

